

秋号

2016
VOL.04

Contents [目次]

関東カマチグループ医療連携会	2P
日中医学交流センター病院見学 消防避難訓練	3P
五反田リハ医師コラム	4P
医療連携室だより	5P
看護部だより	6P
リハビリテーション科だより	
院内旅行報告	7P
院内合唱コンサート	
医事課紹介	8P
看護師入職お祝い金制度 アクセス	

四季
だより

こ
し
た
ん
だ
だ



医療連携会



8月22日(月)に「第2回カマチグループ医療連携会」を帝国ホテルにて開催致しました。

この会は関東カマチグループの14病院全体で行う連携会で、お世話になっている紹介元である急性期病院、患者様の退院後を支える介護・療養の施設の皆様をお招きして、日ごろの感謝を伝え、連携を深める事を目的とした会です。当グループにとっても大きな行事であり、数か月前から実行委員を中心に会の準備を進めてきました。

当日の日中は台風というあいにくの悪天候でしたが、多くの方にご来場頂き盛大に催す事ができました。会は2部構成で、1部は当法人の実績や今後の展望について報告させて頂きました。2部では懇親会を設けさせていただき、当グループ会長・蒲池真澄からの挨拶、ご来賓の方からのご挨拶の後に歓談と、参加者の皆様と交流を図らせて頂きました。

今後も医療機関同士、医療に携わるスタッフ同士が連携を深める事で、医療を必要とする方に還元できるものが大きくなると思っています。行き届かぬ点も多々あったかとは思いますが、ご参加頂きました皆様に感謝申し上げます。

関東カマチグループ医療連携会 実行委員長 藤 洋介



当院におけるリハビリテーションの役割

「障害を受けた患者さんを、その方のなしうる最大の

- 1.身体的
- 2.精神的
- 3.社会的
- 4.職業的
- 5.経済的

な能力を有するまでに回復させることである。」

NPO法人 日中医学交流センター病院見学

兼ねてから交流のあった、NPO法人日中医学交流センター(会長 大坪 修先生)国際部 張漢園さんの紹介で、第1回目の訪日団は深圳の行政や企業代表団で、日本のリハビリテーション医療と機器について病院を見学されました。第2回目は8月3日(水)約22名の中国病院管理訪日団をお迎えしました。中国各地の主要病院の院長、看護部長、事務長などのご一行で、日本におけるリハビリテーション医療の現状視察が目的でした。病院内の見学に加えて、我が国のリハビリテーション医療制度、カマチグループ・巨樹の会の取り組みなど議論を交えてお伝えしました。訪日団の皆様は「日本におけるリハビリテーション医療の現状について理解を深めることができました。なによりも五反田リハビリテーション病院では患者さんにとって建物や施設など療養環境が良いだけでなく、働いているスタッフ一人ひとりが患者様にとって快適な環境作りと個別治療に積極的に携わっている現状に大変感心し勉強になりました」とのお褒めの言葉を頂きました。

中国のリハビリテーション医療はまだ緒に就いたばかりのようですが、今回の交流が今後の中国におけるリハビリテーション医療にお役に立つことを願っています。



医師 池崎 清信

消防避難訓練



11月4日(金)、昼間に病棟で出火した想定による消防避難訓練を実施しました。実際に火災報知器を鳴動させることや、防火扉を開閉させてなるべく現実を想定した訓練内容でした。

出火場所の特定、入院患者様の避難経路の確認、情報伝達方法の確認等を狙いとして訓練は進行し、終了後には消防署職員の講評を受けて消火器の実地消火訓練も実施しました。

万が一の有事に備えての訓練ですが、もしものときに患者様の命を救うためにとても重要な訓練でした。説明だけでは分からない消防設備や患者様の搬送方法について具体的なイメージが描けるようになりました。今後も継続的に実施するとともに院内で情報共有をすることが大事だと思いました。

総務課 森 良太

リハビリテーション医の独り言

副院長 石川卓志



本誌医師コラムを担当することになりました、副院長の石川卓志です。当コラムではリハビリテーション医療について思いつくことを申し述べて参りたいと思います。

これまで、公的急性期病院に勤務していましたが、定年退官後五反田リハビリテーション病院開院とともに入職し、生涯初めて回復期病棟勤務となり1年余りが経過しました。

今でこそリハビリテーション(以後「リハ」と略します)は当たり前になっていますが、私がリハを専攻した研修医時代は、リハ医は希少な存在で、かなり肩身の狭い思いをしました。当時医療の主体は臓器別病態管理で、急性期の患者ケアはもっぱら安静臥床であり、むしろ急性期にリハを行うことは禁忌視する向きもありました。リハに診療依頼が来る頃には、発症からかなり日数も経過し、多くのケースで既に拘縮を生じていました。依頼元医師達の態度も「もう医療としては終了したから後はよろしく」ということで、明確なゴール設定もなくリハ側としては、憤りの毎日でした。

この頃は医学部において、殆どの大学でリハ医学の講座がなく、リハビリテーション科という標榜名すら存在しませんでした(当時は「理学診療科」と言っていました)。私も学生時代の医学教育の中でリハに関する教育はほぼ皆無状態で卒業し、駆け出しの頃はセラピストから教わりながら、日常の診療を実施していました。

リハ部門は病院の中央診療部門として存在しているのみで、リハ専門病院は現在の都市型ではなく、遠く離れた温泉地でのむしろ慢性期ケア的な運営が主体でした。学会活動もいかにリハのアイデンティティを向上させるか、認知度を上げるかということが重要とされ、急性期のリスク管理や早期リハが如何により結果をもたらすかということに精力が注がれていました。

その中で、Barthel indexやFunctional Independence Measure(以後「FIM」と略します。)のような自立度評価の分析が重要となり、リハ治療の戦略も進歩してまいりました。その甲斐もあって、リハ科標榜や、言語聴覚士の国家資格制度等、リハを取り巻く医療制度も逐次整備されました。

また、新専門医制度でもリハ科は基本領域19診療科に組み込まれています。また、FIMはリハ医療のアウトカム評価上不可欠のアイテムとなっています。

初めて回復期病棟に勤務し、リハを取り巻く社会情勢の変化に改めて深い感銘を受けています。新たな気持ちでリハ医療、地域医療に貢献して参りたいと思います。

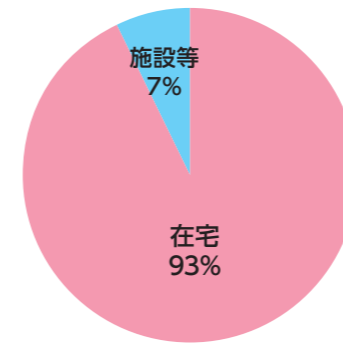
医療連携室だより



当院実績 (H28.4~H28.9まで)

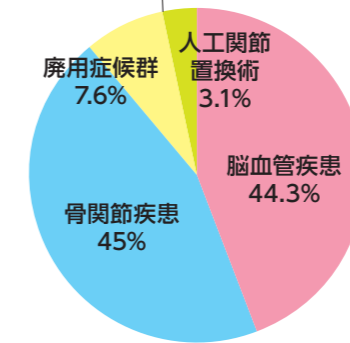
当院における在宅復帰率は93%(カマチグループ全体では90%近く)に達しております。退院された患者様が、ご自宅に笑顔で戻られるよう、きめ細やかなサービスをご提供しております。

■ 当院における在宅復帰率



■ おもな疾患

神経・筋・靭帯損傷 0%

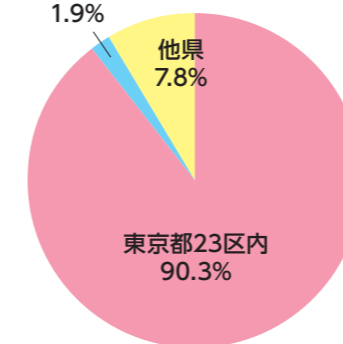


■ 重症患者様の受け入れ

項目	回復期リハ病棟(I)の基準	当院の割合
看護必要度	5%以上	22.94%
日常生活機能評価	30%以上	44.99%
改善率	30%以上	58.09%

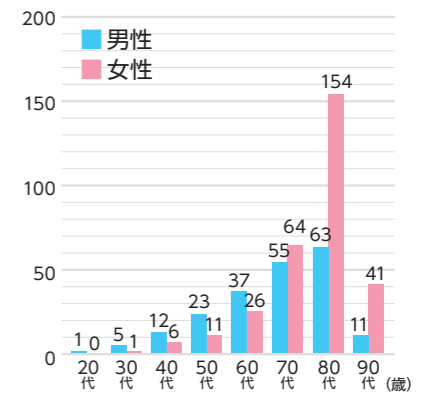
■ おもな地域

東京都23区外 1.9%



区	件数	割合
品川区	133	26.8%
大田区	84	16.4%
港区	73	14.3%
目黒区	67	13.1%
世田谷区	44	8.6%
渋谷区	17	3.3%
江東区	13	2.5%
中央区	15	2.9%
練馬区	1	0.1%
その他	12	2.3%

■ おもな年齢 平均年齢76.5歳



ソーシャルワーカーの仕事を知っていますか?



医療ソーシャルワーカーとは?

医療ソーシャルワーカー(MSW)は、主に医療機関や老人保健施設、在宅介護支援センターなどに勤務し、医師・看護師・理学療法士などと共に、医療チームの一員として、患者様に関わる経済的、社会的、心理的な悩みなどの相談を受け、面接などを通して問題解決のお手伝いをしています。

また、地域の医療・保健・福祉機関と、連絡をとりあい、社会復帰や在宅療養への準備などのお手伝いも行います。

- 退院に向けてのサポート
- 医療中の不安
- 医療費問題

医療ソーシャルワーカーの役割

- 入院や外来などの療養中に生じる医療費や生活費などの経済的問題の相談にのります。
- 病気や障害にともなう不安や、学校、仕事、家庭生活などでの問題の相談や解決の援助を行っております。
- 医療機関への受診や入院の相談にのります。
- 退院して家庭で療養する準備や、学校や仕事に復帰する上での障害となる問題の解決を手助けしております。
- 病気や障害、社会福祉について、多くの人々の理解と協力を得るための活動を行っております。

医療連携室(1階受付)

医療連携室の受付時間 9:00~16:30 (月~金曜日)

入院相談 / MSW 荒木・看護師 高村・加藤
病棟担当 / MSW 杉山・三上・石塚・岸野・松本

☎ 03-3779-8826 (直通)

看護部だより



10月14日(金)・19日(水)・28日(金)に院内感染勉強会を行いました。

勉強会の内容は、これから流行するインフルエンザとノロウイルスについてです。講義のあとでエプロン着脱の実技を参加者で行いました。

インフルエンザは、感染している人のくしゃみや咳のしぶきを吸い込むことが一番の感染の原因となります。予防接種だけでは防げないため、外出後の手洗いやうがい、マスクの使用、そして体調管理が大切です。

ノロウイルスの感染の原因は「食べ物から」と「感染した人の汚物から」の2つです。食べ物からの予防方法は、調理する人は調理前に十分に手洗いをすること、腹痛や下痢の症状がある時は調理を控えること、生で食べるものは必ず生食用を使うこと、食品の加熱は十分に行うこと(中心温度が85度以上1分以上)が大切になります。汚物からの予防方法は、バスタオルや手ふきタオルなどの共用を避けること、下痢などの症状のある人は、最後に入浴し、浴槽に入らないことが大切です。

さらに感染を広げないための対応としては、汚物だけでなく汚物が飛び散ったと考えられる周囲の家具や壁なども汚物と同様に処理をすること、(嘔吐物は半径2~3m、高さ160cmまで飛ぶと言われてます)汚物で汚染されたものや、汚物処理に使用したものはビニール袋に入れて口をしっかりと閉め捨てること、汚物処理を行った人は、十分な手洗いやうがいをすることが大切となります。アルコールは効果が殆どありません。目安になります。市販のハイターを1Lの水に対しハイターを20ml入れ薄めて(0.1%の濃度になります)汚物処理の際に使用して下さい。汚物処理の時には使い捨てエプロンと手袋があるとよいと思います。

看護部 田中 幸江

リハビリテーション科だより



リハビリテーション科では毎日の訓練に加えて、患者様の離床を促す目的も含め病棟職員と協力し定期的にレクリエーションを企画しております。

9月18日(日)には『竹取物語』を題材にした人形劇が催され、多くの患者様が観賞されました。劇を行った職員だけではなく、観賞されていた患者様や御家族にも笑顔が見受けられ、共に楽しい一時を過ごすことができました。今後もこの様な取り組みを通じて職員と患者様の交流を図ると共に、患者様が日々の訓練に一層励んで頂ければと考えております。

リハビリテーション科 黒田 隼平



院内旅行報告



10月28日(月)から11月1日(火)まで、タイのプーケットへ行きました。

プーケットでは食事美味しく、人もあたたかく、とても楽しく過ごすことができました。島内観光や、マリンスポーツ、象に乗って散歩したり、タイの歴史が分かるショーを鑑賞するなど、アクティブに過ごしました。

また、タイ式マッサージも体験し、旅の疲れを癒やすこともできました。異国の文化にたくさんふれることができ、とても充実した旅行になりました。旅行によって英気を養うことが出来たため、日々の業務に邁進していきたいと思えます。

理学療法士 天野 くみ

院内合唱コンサート



9月5日(月)に、入院患者様が相談役になられている男性合唱団「中央大学グリークラブ」のOBで組織される、白門グリークラブにお越しいただき、入院患者様に対しての慰問の意味で合唱コンサートを開催しました。

会場は多数の患者様と御家族様にお集まりいただき満員となり、大変な盛り上がりとなりました。素晴らしい歌声を披露していただき、多くの方に喜んでいただきました。

患者様は素晴らしい歌声に癒され、元気づけられたことと思います。ありがとうございました。

総務課 佐藤 明生



医 事 課 紹 介

「医事課」ってなんですか？

「医事課」というとあまり聞きなれない言葉かもしれませんが、「医療事務」といえば耳にされたことがあるのではないのでしょうか。

「医療事務」とは、主に外来患者様に対する「外来医療事務」、入院患者様に対する「入院医療事務」、医療費の請求に係る「保険請求事務」、外来・入院診療録(カルテ)の管理に係る「診療情報管理業務」などにより構成されています。

医事課の主な仕事は次の内容です。



① 医療費の計算

入退院の手続き及び入院診療費の算定・請求を行っており、月に一度社会保険や国民健康保険に診療報酬明細書(レセプト)を作成して提出します。

② 窓口業務

病院に来られて最初に対応させていただくのが医事課受付スタッフです。こちらで入退院の手続きや保険証の確認、面会のご案内をいたします。また、書類等の作成依頼も医事課窓口で受け付けております。

③ 診断書等の書類作成

生命保険や会社に提出する診断書など様々な書類を患者様からお預かりし、医師に記入してもらい、患者様にお渡しするまでの管理をしています。

このように医事課の業務は、様々な部署との連携で成り立っています。患者様に少しでも快適な入院生活とリハビリテーションをしていただけるよう日々の業務にあたっています。

看護師入職お祝い金制度 はじめました！

看護師の方は、採用させていただいた場合、入職月翌月に

入職祝金30万円

 (税込)を支給いたします。

但し、紹介業者からの紹介の場合はこの制度は除外とさせていただきます。



五反田リハビリテーション病院にて病院見学会実施中！
HPよりお申込ください

五反田リハビリテーション病院 検索
<http://www.gotanda-reha.com/>

四季だより
ごたんだ

秋号
2016
VOL.04

平成28年11月

一般社団法人巨樹の会
五反田リハビリテーション病院
広報委員会
〒141-0031 東京都品川区西五反田8丁目8-20
TEL 03-3779-8820 / FAX 03-3779-8823



- 五反田駅 (JR山手線、都営地下鉄浅草線、東急池上線) 徒歩8分
- 大崎広小路駅 (東急池上線) 徒歩3分
- 大崎駅 (JR山手線、埼京線、りんかい線) 徒歩12分